1980 ―幌尻岳（日高山脈）― 昭和55年10月 No. 35

協会活動状況

（特別の記載のないものは、すべて会場は事務所において。都合により出席者名を省略）

●昭和五十五年五月十七日（土）
通常総会
別記のとおり開催された。

●六月十四日（土）
第八十二回理事会

●六月十六日（月）
「日高山脈国定公園設置に関する要望書」を別記のとおり、道知事、道自然環境保全審議会会長あて提出した。

●六月二十五日（水）
常任理事会

●七月七日（月）
会員・俵　浩三氏の「第一回田村賞受賞」祝賀会を札幌市内で開催した。会員の有志十九名が出席。

●八月三日（日）
親と子の自然教室
自然歩道西岡―有明コースを舞台として第一回目の教室を開催したが、好天に恵まれ有意義な一日となった。参加者は二〇グループ、三十八名。

●八月十一日（月）
常任理事会

●八月十八日（月）
「会誌」編集会議
二十号は、「道路」特集号とすることに決定。企画の打合せ。

●九月七日（日）
親と子の自然教室
道立林業試験場（美唄市光珠内町）を舞台とし、第二回目の教室を開催した。参加者は一九グループ、三十五名。

●九月十九日（金）
「会誌」編集会議
十月二十日を原稿締切日とし、十二月発行をメドに進めることに決定。

●九月二十日（土）
講演会
苫小牧市公民館において、別記のとおり開催した。

●九月二十四日（水）
常任理事会

●十月三日（金）
来道中の米国「シェラ・クラブ」の代表者のかたがたと懇談会を開催した。
米国自然保護団体「シェラ・クラブ」
世界でも有数であり、米国最大の自然保護団体「シェラ・クラブ」（会員十八万名）の訪日視察団一行五二名（団長C・A・Look氏）の老若男女のグループがさる十月二日に来道した。
シェラ・クラブは米国における自然保護運動の中核をなしており、本年六月、七月米国でおこなわれた日米環境会議でも、その推進力として活動した。
十月三日には、本会会員であり、シェラ・クラブ会員でもある佐々保雄北大名誉教授の提唱によって本会と北海道自然保護団体連合とが共催で、一行有志の歓迎会を札幌市内で開催し、相互に自然保護のあり方について大いに懇談した。とくに、シェラ・クラブは多年の豊富な経験から、主として自然を道路建設による破壊から守るための具体的な方法についてのべてもらえたのは有益だった。たとえば日高道路問題については
1　知事、その他に手紙を送ること。
2　署名活動を行うこと。
3　議員に議案審議二四時間前に電報を打つこと。
4　デパートその他で大きなポスターをかかげ、関心をひくこと。
などの、いろいろな運動について説明された。
なお一行は、「日高道路建設中止」を訴える手紙を北海道知事あてに出すということであった。

●十月四日（土）
第八十三回理事会
いよいよ来年から「自然観察指導員研修会」を実施することに決定。早速、（財）日本自然保護協会あて共催の合意連絡をおこなう。時期は七月末日、大滝セミナーハウスで二泊三日の予定。

●十月九日（木）
「開発道路　静内―中札内線（仮称）計画の廃棄についての請願」を北海道議会議長あて別記のとおり提出。南北海道自然保護協会よりも提出。

●十月十九日（日）
親と子の自然教室
「サケ・マスのふるさとを訪ねる」をテーマに、千歳市を舞台として開催。一四グループ、三十一名参加。

北海道自然保護協会

昭和五十五年度通常総会

昭和五十五年度の総会は五月十七日（土）午後二時から日本生命ビル会議室で開催、五十四年度の事業ならびに収支決算報告、五十五年度事業計画案ならびに収支予算案が審議された結果、原案どおり承認された。

なお、総会の前に、倉本　聰氏（シナリオ作家）による特別講演（題名―自然と文化）が行われた。

また、役員改選の結果、次のように顔ぶれが新しくなった。

会長（八木健三）、副会長（新妻　博、門脇松次郎）、常任理事（大山　明、加藤勇太郎、狩野　宏、滝口　亘、長谷川雄七）、理事（赤嶋正克、泉　重雄、斎藤禎男、門村　浩、午来　昌、佐藤　盛、新庄久志、田尻聡子、広井　淳、宗像英雄、森　紫朗、山本　正）、監事（及川敬一、大塚　武、秦　巌夫）

昭和54年度収支決算書（54. 4. 1.～55. 3. 31.）

収入の部		支出の部	
（基本財産運用収入）	（ 14,400）円	（管理費）	（6,210,872）円
基本財産利息収入	14,400	給料手当	3,832,790
（会費収入）	（4,037,500）	福利厚生費	373,518
個人会費収入	1,287,500	会議費	94,655
団体会費収入	2,750,000	旅費交通費	213,590
（事業収入）	（26,869,390）	通信運搬費	157,492
一般事業収入	219,390	消耗品費	120,767
受託調査事業収入	26,650,000	什器備品費	200,000
（寄付金収入）	（ 2,500）	印刷製本費	233,500
（雑収入）	（ 170,752）	燃料費	144,328
受取利息	32,022	光熱水料費	47,096
雑収入	138,730	賃借料	742,316
（前期繰越収支差額）	（ 58,334）	租税公課	8,000
		諸会費	32,500
		雑費	10,320
		（一般事業費）	（2,742,745）
		（独自調査事業費）	（ 30,780）
		（受託調査事業費）	（19,721,000）
		（固定資産取得支出）	（ 36,300）
		（繰入金支出）	（ 800,000）
		（積立預金支出）	（ 350,000）
		（次期繰越収支差額）	（1,261,179）
合計	31,152,876	合計	31,152,876

陳情書、要望書 意見書、回答文書

日高山脈国定公園設置に関する要望書

HNCS第二一八号
昭和五十五年六月十六日

北海道知事　堂垣内尚弘殿
北海道自然環境保全審議会
会長　斎藤春雄殿

（社）北海道自然保護協会
会長　八木健三

日高山脈が北海道のみならず、我国に残された最後の、かつ最大の原始境であり、貴重な自然の宝庫であることは、もはや賛言を要しないところであります。

この日高山脈一帯の国立公園指定が、申請以来十年にして漸く実現しようとしていることは、いささか遅きにすぎたとはいえ歓迎すべき所であります。

北海道自然保護協会はその設置に関し次により要望いたします。

一、指定予定区域を、日高山脈の山稜部に限ることなく、もっと山麓部にも拡げ、また、特別保護地域の拡大をはかること。

二、本国定公園の趣旨にかんがみ、利用施設、その他の人工構築物は最小限にとどめ、できうる限りその原始性の保全に努めること。

三、公園内に、日高山脈横断道路を計画することは、本国定公園の原始性を大きく傷付け、その価値を半減せしむるものであるため、その建設を認めないこと。

昭和55年度収支予算案（55. 4. 1.～56. 3. 31）

1. 一般会計

収入の部		支出の部	
（基本財産運用収入）	（ 100,000）円	（管理費）	（5,974,000）円
基本財産利息収入	100,000	給料手当	3,902,700
（会費収入）	（4,575,000）	福利厚生費	380,000
個人会費収入	1,575,000	会議費	95,000
団体会費収入	3,000,000	旅費交通費	120,000
（一般事業収入）	（ 200,000）	通信運搬費	150,000
（寄付金収入）	（ 50,000）	消耗品費	120,000
（雑収入）	（ 115,821）	印刷製本費	100,000
受取利息	15,000	燃料費	157,000
雑収入	100,821	光熱水料費	58,000
（特別会計繰入金）	（1,680,000）	賃借料	845,000
（前期繰越収支差額）	（1,261,179）	租税公課	5,000
		諸会費	32,500
		図書資料費	5,000
		雑費	3,800
		（一般事業費）	（1,350,000）
		（独自調査事業費）	（ 100,000）
		（繰入金支出）	（ 400,000）
		（積立預金支出）	（ 158,000）
合計	7,982,000	合計	7,982,000

2. 特別会計

収入の部		支出の部	
道庁調査受託金	1,800,000 円	道庁調査	1,800,000 円
会社調査受託金	5,000,000	調査費	1,620,000
		一般会計繰入金	180,000
		会社調査	5,000,000
		調査費	3,500,000
		一般会計繰入金	1,500,000
合計	6,800,000	合計	6,800,000

開発道路　静内―中札内線（仮称）計画の廃棄についての請願

HNCS第二三三号
昭和五十五年十月九日
北海道議会議長　西尾六七殿

（社）北海道自然保護協会
会長　八木健三
（紹介議員　本間喜代人先生）

要旨

日高山脈一帯は、我国に残された数少ない原生的自然地域であり、学術上にも極めて貴重な地域であります。

この貴重な自然を破壊することなく、人類の遺産として後世に残すことがわれわれに課せられた大きな責務であると考えます。

本会は、とくに別記理由により、この地域に計画されている開発道路　静内―中札内線（仮称）の建設計画を廃棄することを強く請願いたします。

理由

一、日高山脈は、スイスのアルプスに匹敵するアルプス造山運動によって造られた、典型的な褶曲山脈であり、世界における地質学的な標準地のひとつとして高い価値がある。

二、このような構造の結果、衝上断層や破砕帯が発達し、非常に崩壊しやすい地質である。

また、この地域は尾根が鋭く、谷は急峻で、雪崩も極めて多い。たとえ最新の工法によって工事を行っても、法面の崩壊や河川への土砂流出などは、防止することは不可能である。

さらにまた、道路の安全維持は期しがたい。

三、道路建設による自然破壊は、建設工事そのものによるにとどまらず、人車の通行による環境汚染、生態系の著しい破壊などが起きることは過去の例にてらしてみても明白である。

四、道路開設による社会、経済的な効果については、道央、道東を結ぶルートとして、既存の日勝道路、現在建設中の国鉄石勝線、道道浦河―大樹線があり、その上、急峻で、冬期不通の可能性の高い当開発道路を建設する必要性は考えられない。

●「自然科学講演会」ひらかれる

九月二十日、於・苫小牧

北海道自然保護協会と苫小牧自然保護協会で、市民生活に身近な自然の問題を考えようと、苫小牧市では初めての「自然科学講演会」を開いた。一昨年から火山活動が活発化した樽前山の火山活動や防災対策が今回のテーマにえらばれただけに、同講演会には自然保護や防災関係者が多数集まった。

講演会では当協会の八木健三会長（北大名誉教授・北星学園大教授）が「樽前山の火山活動について」、北大農学部の東三郎教授が「有珠山の爆発とその防災について」をテーマに講演された。

（会員・苫小牧民報社）

●「国際地理学会北海道巡検旅行班」参加者より知事に要望

八月末から九月初めにかけて東京で開催された国際地理学会のあと、欧米の地理学者十名は、道教育大学旭川分校の岡本教授をリーダーとする北海道巡検旅行班に参加し、道内各地の自然、社会、産業などを視察した。この間、北海道のすばらしい自然に感嘆するとともに、それらの自然が開発によって破壊されつつある現実も認識し、案内者の一人であった八木会長の「日高横断道路による日高の原始自然の破壊」に深い関心をよせた。

その結果、道知事に要望書をしたため、これに全員が署名して九月十一日付で送った。その内容は、

1　日高横断道路の計画を再検討する

2　日高の原始自然を守るため、速やかに日高国定公園を設定する

3　釧路湿原の主要部分を、土地改良から守る

の三点である。一行は、西独マインツ大学エルトマン・ゴルムゼン教授をはじめ、著名な地理学者も多く、この要望書は日高道路問題が国際的な関心を呼んでいることを示すものであろう。

お知らせコーナー

◆「やさしい自然保護講座」の実施

趣　旨

自然とのふれあいを求め、自然に親しみたいという志向が最近とくに高まっておりますが、誰にでもわかりやすい講座を通して自然のしくみや、自然保護の推進を正しく理解し、認識していただくことをネライとします。

場所　北海道婦人文化会館（中央区北一条西七丁目）

日時　十一月二十二日～十二月二十日の毎土曜日、午後二時～四時

定員　四十名

受講料　二千円（会員外は二千五百円）

申し込み　十一月二十日までに、ハガキまたは電話にて直接当協会に（住所、氏名、年令、職業を明記）

◇十一月二十二日

「自然環境と人間の生活」辻井達一氏（北大農学部助教授）

◇十一月二十九日

「生命の舞台と生態系」鮫島惇一郎氏（農林水産省林業試験場北海道支場育種研究室長）

◇十二月六日

「自然保護の考え方」俵　浩三氏（道立野幌森林公園事務所公園管理部長）

◇十二月十三日

「自然保護と公害」左部　勝氏（道立公害防止研究所長）

◇十二月二十日

「自然保護の手段と方法」中島庄一氏（北海道生活環境部自然保護課長）

◆講演会の開催

南北海道自然保護協会と共催で、講演会を函館市内で開催する。

日時　十一月二十九日（土）午後二時～四時

場所　道新函館支社ホール（函館市五稜郭町）

講師　辻井達一氏（北大農学部助教授）

演題　北方圏の自然と暮し

内容　最近歩き廻わって見聞したアラスカ、カナダの自然環境を通して、自然の美しさと人とのふれあいを、スライドを利用しながら語っていただく。

●会員の異動

（入会）山本繁樹、高橋正行、麻場邦彦、近藤淳子、矢口以文、峰山富美、奥山悦朗、小田倫之、高橋春吉、石本礼子、山形由史、山田和子、伊藤浩司、岡村秀雄、大浦　健、進藤　勉、斎藤　岬、浦野慎一、千村勝哉、小中恭子、岡本次郎、土屋吉次、本田英夫、㈲青木造園、谷岡緑化㈱、㈱横山造園、㈱毎日新聞社北海道支社、㈱宝石の玉屋、㈱北海道土木工業新聞社、王子緑化㈱苫小牧営業所山田尚達、土橋信男、日鋼緑化株式会社

（退会）五十嵐　謙、一木万寿三、江田博明、寺田康道、中野茂雄、西本宗信、橋本光政、松井　修、㈱浅沼組札幌支店、日産建設㈱札幌支店

◇出版物のお知らせ

●「北の山」

元会長・伊藤秀五郎先生が逝かれてからもう四年になるが、こんど中央公論社から中公文庫の一つとして出た。北海道の山についての十一編の紀行のほか、感想・随想編として山と漂泊、北海道の春など十一編がのせられている。主として一九三〇年前後に書かれたもので、昭和十年、渡米前に、と自序にあるように昭和十年一月に梓書房から出されたものの文庫本である。

解説で林　和夫氏（本会会員、北大山の会会員）が述べておられるように、「地味」な名著が復刊されたのは喜ばしい。中公文庫・中央公論社・三〇〇円。

昭和五十五年十月三十一日発行

〇六〇　札幌市中央区北一条西七丁目
広井ビル五階
発行所　社団法人北海道自然保護協会
電話（〇一一）二六一―六五八六（代）
（〇一一）二五一―五四六五（直）
郵便振替口座小樽四〇五五
北海道拓殖銀行本店〇一七二五九
北海道銀行本店一〇一四四四

発行人　八木　健三

印刷　札幌印刷株式会社